

KDR サンクトペテルブルグ平可夫特電：

中東のジャスミン革命が拡大することによって、2011 年におけるロシアの武器輸出が新たな打撃を受ける可能性が極めて高くなった。リビアのジャスミン革命によって、ロシアは、当面北アフリカ国家に SU-35 戦闘機を輸出する機会を失った。同時に、シリア、イエーメンの政治が不安定になり、欧米がシリアに対し制裁を加えることによって、ロシアのこの地域における多くの武器輸出が困難になる可能性が出てきた。イランについて、西側と米国の圧力を受けたため、ロシアは、イランに対する S-300 型地对空ミサイル輸出契約を無期限延長した。

シリア、イエーメンの陸海空軍の主要装備は、すべてロシア製であり、イエーメン空軍は、34 機の MIG-29SMT 型多用途戦闘機を輸入したばかりである。さらにイエーメンは、ロシアから MI-17 型軍用輸送ヘリ、T-72 型主戦タンクの輸入を希望している。また中国は、イエーメンの軍事装備品の提供国である。イエーメン海軍は、中国製の C-802 シリーズ艦対艦ミサイルを装備し、過去数年来、中国はイエーメンに対し 2 億ドルの軍事装備品を提供した。現在欧米は、イエーメンに対し軍事輸出禁止令を発していないが、イエーメン情勢の不安定はすでに数ヶ月持続しており、一旦リビアやシリアのような国内衝突が発生すれば国際的な制裁が加えられる可能性が高まる。

2011 年 3 月 10 日、ロシア大統領は、シリアに対する武器輸出禁止令を発した。消息筋によると、ロシアとシリアは、最近 MIG-29SMT 型戦闘機及びその他防空ミサイルの輸出に関する協議書に署名していた。これらの武器システムは、IGRA-S 型肩打ち式防空ミサイル、ESKANDER-E 型戦術ミサイルを含んでいる。

特に注意すべきことは、リビア、シリアに対する軍事制裁活動は、北朝鮮の軍事工業にも極めて大きな打撃となることだ。北朝鮮は、リビア、シリア、イエーメンの主要軍事装備品の提供国である。北朝鮮は、長年にわたってリビア、シリアに軽型装備品を、リビアに対しては中国製を模倣した 107 MM ロケット砲を、イエーメンには改良型 SCUD 弾道ミサイルを提供している。

以上